

平成26年度 村上市特別活動部 活動報告

部長 星 邦央

1 研究主題

人間関係づくりを大切にした特別活動の在り方

2 研究の概要

特別活動の目標の一つである「人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度」の育成が、現代における少子化、地域社会との関係の希薄化、価値観の多様化等で難しくなっていることが現状である。

そこで、昨年度の研修テーマを踏襲し、人間関係づくりの再構築を目指したライフスキルの授業研修や、構成的グループエンカウターの実践発表、各学校における児童会の縦割り班活動の情報交換等を行い、研修に努めることとした。

3 研究の実際

①ライフスキル授業参観（7月3日 砂山小学校）

- ・砂山小学校の中野均教諭から、5年生のライフスキル授業を公開していただき、部員で参観した。テーマは「自分のできることに目を向けよう」で、セルフエスティームの意味を知り、自分ができることを見つけさせ、自尊感情を高めることをねらいとする授業であった。
- ・「人間関係づくり」という視点から、グループでの活動を多く取り入れたり、登場人物を励ます活動を行ったりすることを、授業者から提案していただいた。

②構成的グループエンカウターに関する講話・村上南小縦割り班活動の参観（11月21日 村上南小学校）

- ・村上南小学校の縦割り班活動「ふれあいキッズカーニバル」を、部員で参観した。6年生を中心に準備してきた出店で、楽しそうに児童たちが関わる姿を見ることができた。
- ・塩野町小学校の仙田満教諭から、構成的グループエンカウターの講話をしていただいた。実際に自分たちも児童の役としてやることで、どんな気持ちになるのかを体験し、シェアリングで共有することができた。



4 成果と課題

① 成果

- ・実際にライフスキルの授業を参観したことで、どのように授業を行っていけばよいのか、そして授業を行う際のポイントを理解することができた。
- ・ライフスキルの授業を『意識改革のための時間』としてとらえ、それを今後の活動につなげ、実際に行動につなげていくことで、児童の力になっていくことが分かった。
- ・自分たちでエンカウターを体験したことで、人間関係づくりのためにエンカウターが有効であることを実感することができた。
- ・エンカウターには『自己に関すること』『人間関係に関すること』『集団に関すること』と様々な種類があり、教育活動と関連させながら「①こんな時 ②こんな理由で ③このエクササイズを行う。」という発想で実践すると効果が上がることが分かった。

② 課題

- ・ライフスキルは有効であるが、教育課程の中でどう位置付けていくかを考える必要がある。校内研修等で授業のやり方を学び、ライフスキルの必要感を実感させながら、職員の温度差を埋めていけるようにしていく必要がある。
- ・エンカウターを行えば、良い人間関係が築かれるというわけではない。日々の教育活動の中にも、他者と関わる場面を設定することが大切になってくる。

